令和４年度　長崎県埋蔵文化財センター巡回遺跡展・講演会

島で生きる。海と暮らす。

―五島列島の遺跡から見た交流と暮らしの変化―

於　鯨賓館ホール（長崎県南松浦郡新上五島町有川郷 578-36）
日時　令和4年（2022）10 月 9 日(日)　13:00～16:00

講演会スケジュール

13:00 – 13:05　開会挨拶
長崎県埋蔵文化財センター所長　寺田　正剛

13:05 – 13:35　講演①「海から見た五島列島の歴史」
長崎県教育庁学芸文化課　文化財班係長　中尾　篤志

13:35 – 13:45　休憩

13:45 – 14:35　講演②「五島列島の先史人 ―海を駆けた足跡を追う―」
熊本大学名誉教授　木下　尚子

14:35 – 14:45　質疑応答

14:45 – 15:00　休憩

15:00 – 15:30　研究発表「定光寺前遺跡出土の土師器からみた中世壱岐の研究」
壱岐高等学校東アジア歴史中国語コース　歴史学専攻生
※質疑応答の時間を含む

15:30 – 15:35　閉会挨拶
新上五島町教育委員会文化財課　課長　竹内　睦生

15:35 – 16:00　ギャラリートーク

令和４年 10 月９日
於 鯨賓館ホール

海から見た五島列島の歴史

長崎県教育庁学芸文化課　中尾篤志

１．位置と環境

〇周辺との位置関係
〇対馬海流の流れ

２．時代別概説

（１）旧石器時代

・九州と陸続きの時代
・細石器を利用して大型動物を捕獲。

（２）縄文時代

・温暖化により現在の海況の形成。
・貝塚の形成⇒漁撈活動の開始。
・特徴的な漁撈具の出土（石鋸・結合式釣針・離頭銛・アワビオコシ等）⇒外洋性漁撈

（３）弥生時代

・水稲耕作関係の石器（石包丁）極端に少ない。
・貝塚の形成。
・特徴的な漁撈具出土⇒外洋性漁撈の継続
・南島産貝輪の出土⇒本格的な交易活動の開始

（４）古墳時代

・墳丘を持つ古墳の分布が希薄⇒弥生時代以来の石棺墓主体
・鼓形器台、陶質土器⇒交流の継続

（５）古代

・遣唐使の航路
・空海、最澄にまつわる伝承地が各地に残る。
・新羅印花文陶器出土⇒新羅との交流か。
・アワビの大量出土⇒調の貢納と関連か。

（６）中世

・中国産貿易陶磁器が大量に出土⇒博多―中国南部を結ぶ日宋・日明貿易の中継地。
・碇石、海底遺跡の存在⇒沈没船か。
・日引石の中世石塔群⇒国内各地との交流。
・青方文書にみる漁業権を巡る相論記事⇒活発な漁撈活動を反映。

（７）近世

・他領からの漁業者が五島に進出⇒鯨組・マグロ大敷網・カツオ大敷網。

３．まとめ　―海から見た五島列島の歴史的特徴―

〇対馬海流がもたらす豊富な回遊魚⇒縄文時代以降活発な漁撈活動展開。
〇漁撈活動で蓄積された技術・知識・経験⇒国内外各地との交易活動展開。

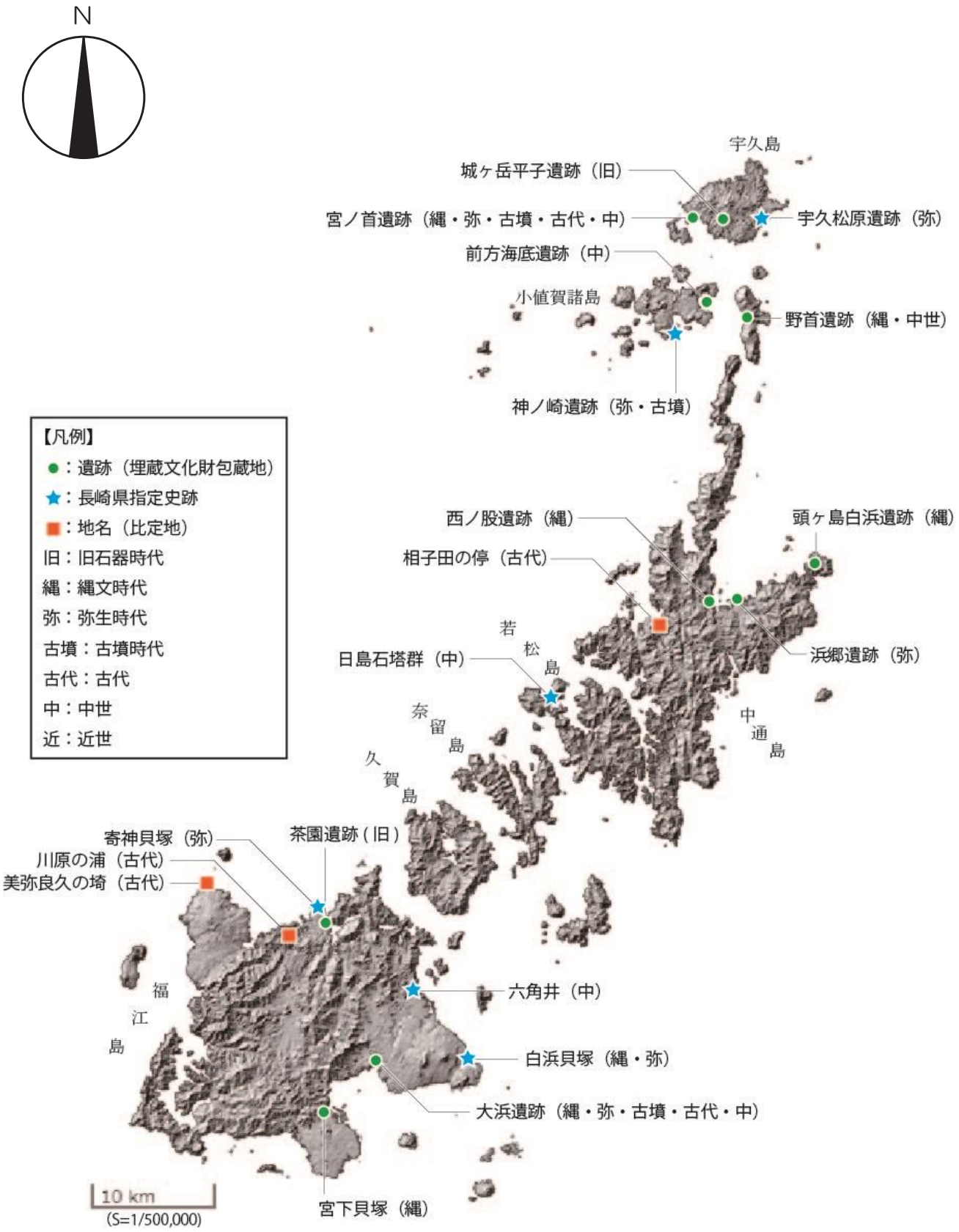


図　五島列島主要遺跡分布図(S=1/50 万)

長崎県歴史年表 ※赤字は五島列島関連

時代	国内の主なできごと	県内の主なできごと	関連する史跡等 ※【重】重要文化財・【特史】国特別史跡・【史】国史跡 【登】国登録・（史）県史跡
旧石器時代	ナウマンゾウやオオツノジカが生息。	ナイフ形石器などの剥片石器が盛んに作られる。	
縄文時代	土器の出現。 弓矢の出現。	洞窟遺跡が展開。	【史】泉福寺洞窟（佐世保市） 【史】福井洞窟（佐世保市） 【重】長崎県泉福寺洞窟出土品（佐世保市） 【重】長崎県福井洞窟出土品（佐世保市）
	縄文文化の展開。	**岩陰遺跡、開地遺跡、貝塚など多様な遺跡が展開。**	【重】長崎県佐賀貝塚出土品（対馬市） （史）岩下洞穴（佐世保市） （史）下本山岩陰遺跡（佐世保市） （史）川頭遺跡（諫早市） **（史）白浜貝塚（五島市）**
弥生時代	水稲耕作の開始。	**支石墓群の流入。**	【史】原山支石墓群（南島原市） 【史】大野台支石墓群（佐世保市） **（史）宇久松原遺跡（佐世保市）** （史）佐々町狸山支石墓群（佐々町）
	農耕集落の出現。 金属器の使用。 57 倭の奴国王が後漢の光武帝から金印を賜る。 239 邪馬台国の女王卑弥呼が魏に使いを送る。	**五島列島に多くの貝塚が形成される。** 各地で石棺墓が作られる。 対馬で青銅器の副葬や埋納が始まる。 魏志倭人伝に対馬国・一支国（いきこく）が記される。	（史）里田原遺跡（平戸市） **（史）寄神貝塚（五島市）** **（史）神ノ崎遺跡（小値賀町）** 【史】塔の首遺跡（対馬市） （有）大吉戸神社の広鋒青銅矛（対馬市） （有）恵比須山遺跡出土の一括遺物134点（対馬市） （有）かがり松鼻遺跡出土遺物一括（対馬市） 【特史】原の辻遺跡（壱岐市） 【重】長崎県原の辻遺跡出土品（壱岐市）
古墳時代	前方後円墳の出現。 古墳文化の展開。 前方後円墳の終焉。	各地で古墳が築造される。	【史】根曽古墳群（対馬市） 【史】壱岐古墳群（壱岐市） 【史】曲崎古墳群（長崎市） （史）大塚山古墳（壱岐市） （史）出居塚古墳（対馬市） （史）彼杵の古墳（東彼杵町） （史）岳崎古墳（平戸市） （史）笠松天神社古墳（平戸市） （史）サイノヤマ古墳（対馬市） （史）鬼の岩屋（壱岐市） （史）長戸鬼塚古墳（諫早市） 【史】矢立山古墳群（対馬市）
飛鳥時代	593 厩戸王が推古天皇の摂政となる。 645 乙巳の変。 663 白村江の戦で唐・新羅の連合軍に敗れる。 664 対馬・壱岐等に防人と烽が置かれる。	667 対馬に金田城築城。	【特史】金田城跡（対馬市）
奈良時代	710 平城京へ遷都。	741 壱岐・対馬に嶋分寺の建立が命じられる。	（史）壱岐国分寺跡（壱岐市）
平安時代	794 平安京へ遷都。 1016 藤原道長が摂政となる。 1156 保元の乱。 1159 平治の乱。 1167 平清盛が太政大臣となる。 1185 壇ノ浦の戦いで平家滅亡。	**776 遣唐使船が青方に停泊。** **804 空海・最澄が乗った遣唐使船が川原浦を出港。** このころ滑石製石鍋の生産が始まり広域に流通。	【史】ホゲット石鍋製作遺跡（西海市）
鎌倉時代	1185 守護・地頭の設置。 1192 源頼朝が征夷大将軍となる。 1274 元軍が博多を攻撃（文永の役）。 1281 元軍が再び博多湾を攻撃（弘安の役）。 1333 鎌倉幕府滅亡。	1274 元軍が対馬・壱岐に侵攻。 1281 元軍が再び対馬・壱岐に侵攻。 鷹島で暴風雨にあって壊滅。	（史）文永の役新城古戦場（壱岐市） （史）文永の役松浦家供養塔（松浦市） 【史】鷹島神崎遺跡（松浦市） （史）弘安の役瀬戸浦古戦場（壱岐市）

時代	国内の主なできごと	県内の主なできごと	関連する史跡等 ※【重】重要文化財・【特史】国特別史跡・【史】国史跡 【登】国登録・（史）県史跡
室町時代	1336 足利尊氏が入京し光明天皇を立てる。 後醍醐天皇が吉野に移る。 1392 足利義満が南北朝を統一。 1404 明と勘合貿易を開始。 1467 応仁の乱始まる。 1543 鉄砲伝来。 1549 ザビエルによるキリスト教伝来。 1573 織田信長が足利義昭を追放。 室町幕府滅亡。	1419 朝鮮が対馬に侵攻（応永の外寇）。 1474頃 西郷氏が伊佐早の高城に移ったと伝わる。 **1507 玉之浦納の乱。** **1540頃 明の商人王直が五島・福江に来航。日明貿易を行う。** 1550 ポルトガル船が平戸に入港。 ザビエルが平戸で布教。 1562 ポルトガル船が横瀬浦に入港。 1563 大村純忠が受洗しキリシタン大名となる。 1565 ポルトガル船が福田に入港。 1567 ポルトガル船が口之津に入港。 1569 長崎にトードス・オス・サントス教会建設。 1571 ポルトガル船が長崎に入港。	**（史）六角井（五島市）** （史）南蛮船来航の地（西海市） （史）南蛮船来航の地（南島原市） （史）トードス・オス・サントス跡（長崎市）
安土桃山時代	1576 織田信長が安土城の築城を開始。 1582 本能寺の変。 1592 豊臣秀吉による朝鮮出兵（文禄の役）。 1597 第2次朝鮮出兵（慶長の役）。	1580 有馬にセミナリヨ設置。 有馬晴信が受洗しキリシタン大名となる。 大村純忠が長崎、茂木をイエズス会に寄進。 1582 キリシタン大名がローマ教皇に少年使節を派遣。 1587 豊臣秀吉による九州平定。 長崎、茂木、浦上を直轄領とする。 1592 松浦鎮信、有馬晴信、大村喜前、宗義智らが朝鮮に出陣。 長崎に奉行、代官、町年寄が置かれる。 1597 長崎の西坂で26人のキリシタンを処刑。 （日本二十六聖人殉教） 1599頃 大村喜前が玖島城を築城したと伝わる。	【史】日野江城跡（南島原市） 【史】勝本城跡（壱岐市） 【史】清水山城跡（対馬市） （史）日本二十六聖人殉教地（長崎市）
江戸時代	1600 関ヶ原の戦い。 1603 徳川家康が江戸幕府を開く。 1614 幕府が全国にキリスト教禁止令。 1639 ポルトガル人の来航禁止。 オランダ、中国のみ貿易が許される。	このころ県内で陶器の生産開始。 1605 波佐見で陶磁器の生産開始。 1607 徳川家康の招きに応じて、朝鮮国王が使節を派遣（朝鮮通信使）。 1609 オランダが平戸に商館設置。 1613 イギリスが平戸に商館設置。 1614 長崎の教会群が破却される。 1620 我が国最初の黄檗宗寺院である興福寺が創建。 1622 長崎の西坂で55人のキリシタンを処刑(元和の大殉教)。 1623 平戸のイギリス商館が閉鎖。 1624 松倉重政が島原城を築城。 鄭成功が平戸で誕生。 1634 長崎の中島川に眼鏡橋架橋。 1637 島原・天草一揆（島原の乱）勃発。 1641 平戸のオランダ商館を出島に移す。 福岡藩による長崎警備開始。 1642 佐賀藩による長崎警備開始。 1657 大村領でキリシタン600人余が発覚（郡崩れ）。 1670 大村藩の藩校として集義館ができる。 1689 唐人屋敷ができる。 1718 松浦棟により平戸城再築。 1790 大村藩の藩校として集義館に代わって五教館ができる。 1797 大村藩から五島藩へ農民の移住が進む。 1808 フェートン号事件。 このころ益富家による捕鯨業が最盛期。 1824 シーボルトが鳴滝塾を開く。	（史）葭之本窯跡（佐世保市） （史）中野窯跡（平戸市） 【史】肥前波佐見陶磁器窯跡（波佐見町） 【史】平戸和蘭商館跡（平戸市） （史）興福寺寺域（長崎市） （史）島原城跡（島原市） （史）鄭成功居宅跡（平戸市） 【重】眼鏡橋（長崎市） 【史】原城跡（南島原市） 【史】出島和蘭商館跡（長崎市） （史）五教館御成門（大村市） 【史】長崎台場跡（長崎市） （史）鯨組主益富家居宅跡（平戸市） 【史】シーボルト宅跡（長崎市）

時代	国内の主なできごと	県内の主なできごと	関連する史跡等 ※【重】重要文化財・【特史】国特別史跡・【史】国史跡 【登】国登録・（史）県史跡
	1825 外国船打払令を発布。		
		1839 諫早の本明川に眼鏡橋を架橋。	【重】眼鏡橋（諫早市）
		1846 フランス軍艦が長崎に入港。	
		1849 アメリカ軍艦が長崎に入港。	
	1853 ペリーが浦賀に来航。	1853 ロシア軍艦4隻が長崎に入港。	
		1857 長崎に医学伝習所設置。	
		長崎溶鉄所の建設。	
	1858 日米修好通商条約締結。	1858 長崎開港。居留地の建設開始。	
		1859 グラバーが長崎に来る。	【重】旧グラバー住宅（長崎市）
		1863 五島藩の福江城が完成。	**（史）石田城跡（五島市）**
		1865 大浦天主堂で「信徒発見」が起こる。	【史】大浦天主堂境内（長崎市）
	1867 大政奉還。		
明治時代	1868 年号が明治に変わる。		
		1869 高島北渓井坑で出炭開始。	【史】高島炭鉱跡（長崎市）
	1871 廃藩置県。		
	1873 キリシタン禁制の高札撤去。		
		1887 対馬の浅茅湾4箇所に砲台整備。	
		1889 佐世保鎮守府の設置。	
		佐世保軍水道整備。	
		1891 松浦炭鉱の採掘開始。	
		長崎市の水道施設の整備。	【重】本河内水源地水道施設（長崎市）
	1894 日清戦争開戦。		
		1896 竹敷海軍要港部の設置。	
		1897 長崎－長与間と早岐－武雄間に鉄道開通。	
		1898 対馬の13カ所に堡塁整備。	
		1900 対馬の万関運河掘削。	
		1903 佐世保に海軍造船廠・海軍工廠を整備。	
	1904 日露戦争開戦。		
		1906 佐世保に海軍橋を架橋。	
		1907 崎戸炭鉱の掘削開始。	
大正時代	1914 第1次世界大戦開戦。		
		1915 長崎に路面電車が開通。	
		1916 佐世保に立神係船池を整備。	
		1923 長崎－上海間に定期航路開設。	
		大村に大村海軍航空隊を開設。	
		1926 長崎の日見トンネル開通。	【登】日見トンネル（長崎市）
昭和時代	1929 世界恐慌。		
		1933 壱岐に黒崎砲台を設置。	
		1934 雲仙が国立公園に指定。	
		1941 佐世保海軍工廠川棚分工場が開設。	
	1941 太平洋戦争開戦。	大村に第21海軍航空廠を設置。	
		1944 佐世保大空襲。	
	1945 ポツダム宣言受諾。	1945 広島・長崎に原子爆弾投下。	【史】長崎原爆遺跡（長崎市）
	第2次世界大戦終戦。		
	1950 朝鮮戦争開戦。		
	1951 サンフランシスコ講和条約に調印。	1951 平和公園の整備開始。	【登】平和公園（長崎市）
		1955 西海国立公園指定。	
		西海橋開通。	【重】西海橋（佐世保市・西海市）
		1957 諫早大水害。	
	1964 東京オリンピック開催。	1967 長崎バイパス開通。	
	1970 大阪万博開催。	1970 松島炭鉱大島鉱業所が閉山。	（史）松島炭鉱第4竪坑（西海市）
	1972 沖縄が日本に復帰。		
	日中共同声明。		
	1973 オイルショック。	1974 端島炭坑が閉山。	
		1975 大村に世界初の海上空港が開港。	
		1977 平戸大橋が開通。	
		1982 長崎大水害。	
	1987 国鉄の分割・民営化。	1986 中華人民共和国の長崎領事館の開設。	

時代	国内の主なできごと	県内の主なできごと	関連する史跡等 ※【重】重要文化財・【特史】国特別史跡・【史】国史跡 【登】国登録・（史）県史跡
平成時代	1991 バブル経済の崩壊。 1995 阪神・淡路大震災。 2011 東日本大震災。	1990 長崎自動車道が開通。 1991 雲仙普賢岳の大火砕流が発生。 生月大橋・若松大橋が開通。 1992 佐世保にハウステンボスがオープン。 1998 西海パールラインが開通。 1999 大島大橋が開通。 2005 女神大橋が開通。 2008 諫早干拓事業が完了。 2009 鷹島肥前大橋が開通。 島原半島が世界ジオパークに認定。 2011 伊王島大橋が開通。 2015 明治日本の産業革命遺産が世界文化遺産に登録。 2017 朝鮮通信使に関する記録が世界の記憶に登録。 2018 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が 世界文化遺産に登録。	

令和４年度　長崎県埋蔵文化財センター　巡回遺跡展「島で生きる。海と暮らす。」講演　2022 年 10 月 9 日　13:00

五島列島と先史人＊―海を駆けた足跡を追う―

木下尚子（熊本大学　名誉教授）

韓半島と密接な関係をもち、奄美・沖縄に至る海上を往来した　弥生時代の五島列島人の姿を追います。

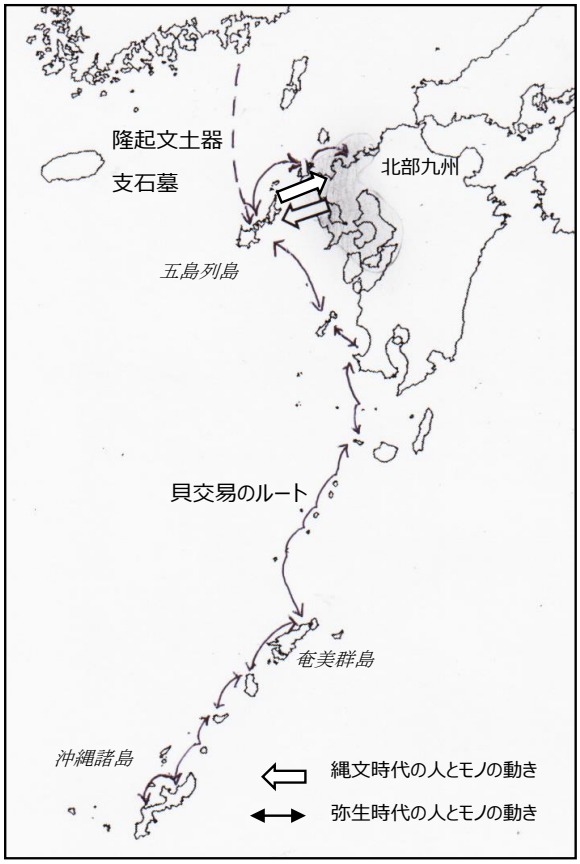
○　五島列島には遺跡が多い―先史時代の概観

旧石器時代：3 万年前には海面が 120m 前後低下しているので、人はあちこちから島に来ていただろう。
旧石器人はすでに海上を航海していた（神津島産黒曜石の例）

縄文時代：五島列島の縄文人は九州西岸の縄文人と同じ文化を共有していた。東西方向の海上移動は日常的。
五島列島と九州西岸間には島や陸地が途切れなく見えるので、同じ文化をもつのは自然な動き。
稀に韓半島の土器が入る。

弥生時代：北部九州の農耕社会が弥生時代の早い時期に五島列島に直接接触し、その結果五島列島人は北部九州人に琉球列島の大型巻貝を届ける役割を担うことになる。これによって人々の移動は南北方向に変化する。経済的な状況の変化が人の動きをつくった。
水田稲作の適地が少ないため、生活では縄文文化の伝統が続く。

古墳時代：再び東西方向の移動が主となるが、五島列島への古墳文化の波及は目立たない。



○　弥生時代の貝交易

北部九州の弥生人は、琉球列島産の大型巻貝（ゴホウラ、イモガイ、オオツタノハ）の貝殻で作った特別な腕輪を好み、貝殻を輸入するために沖縄と北部九州を結ぶ 1200km の交易ルートを開拓した。この海上遠距離交易を貝交易といい、生前期から後期まで約 700 年続いた。

五島列島を含む西北九州人は、これらの貝殻を運んで北部九州と沖縄をつなぐ重要な役割を果たした。

・貝交易の
- 貝殻の消費者：北部九州弥生人
- 運搬者：前期～中期前半：西北九州人、奄美人
  中期後半～後期前半：南九州人、奄美人
- 貝殻の提供者：沖縄人

＊用語の説明：先史人は、先史時代の人々のこと。先史時代は文字による記録（文献）のない時代のこと。日本では旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代。なお文献のある時代は歴史時代という。文字が登場しても使用がわずかな時代のことを原史時代とよんで区別することもある。日本では弥生時代と古墳時代がこれにあたる。

１．五島列島と韓半島、奄美・沖縄とのつながり

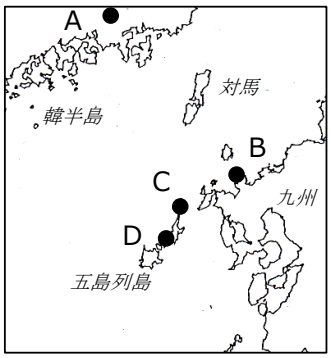
○ 沖縄の大型巻貝が最初に登場するのは西北九州の墓（弥生早～前期）

・ 佐賀県大友遺跡 8 号支石墓：オオツタノハ腕輪（女性）

57 号支石墓：ゴホウラ腕輪（男性）

・ 長崎県松原遺跡 1 号支石墓：オオツタノハ腕輪、イモガイ腕輪（不明）

1 号土坑墓：オオツタノハ腕輪（女性）



A:大坪里遺跡　B:大友遺跡

C:松原遺跡　D:浜郷遺跡

奄美・沖縄とのつながり

オオツタノハは種子島以南に多いカサガイの一種

ゴホウラとイモガイは奄美諸島以南に多い大型巻貝

韓半島とのつながり

支石墓の存在がこれを示している

○ 韓半島と同じ作り方による二枚貝製のビーズ

浜郷遺跡 1 号支石墓　右足首に 66 個の貝製ビーズが巻かれる

韓半島の大坪里遺跡出土の貝製ビーズと同じ

○ キイロダカラの登場

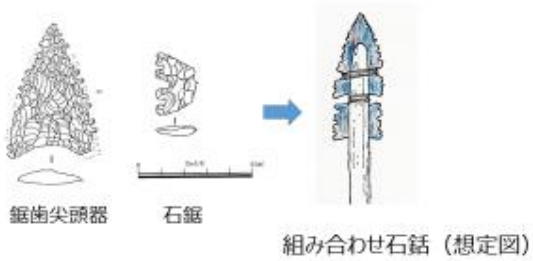
浜郷遺跡 1957 出土の人骨にキイロダカラが伴っていたとされる。

キイロダカラは奄美・沖縄のサンゴ礁地域の貝殻。

弥生時代開始期に、どの地域よりも早く、最先端の情報が入っていたのは驚き！

２．なぜ弥生時代の初めの五島列島に、韓半島と奄美・沖縄とのつながりができたのか

○ 縄文時代からの海上活動の伝統　：　縄文後期に西北九州沿岸民の漁撈具が新保し活動範囲が広まった



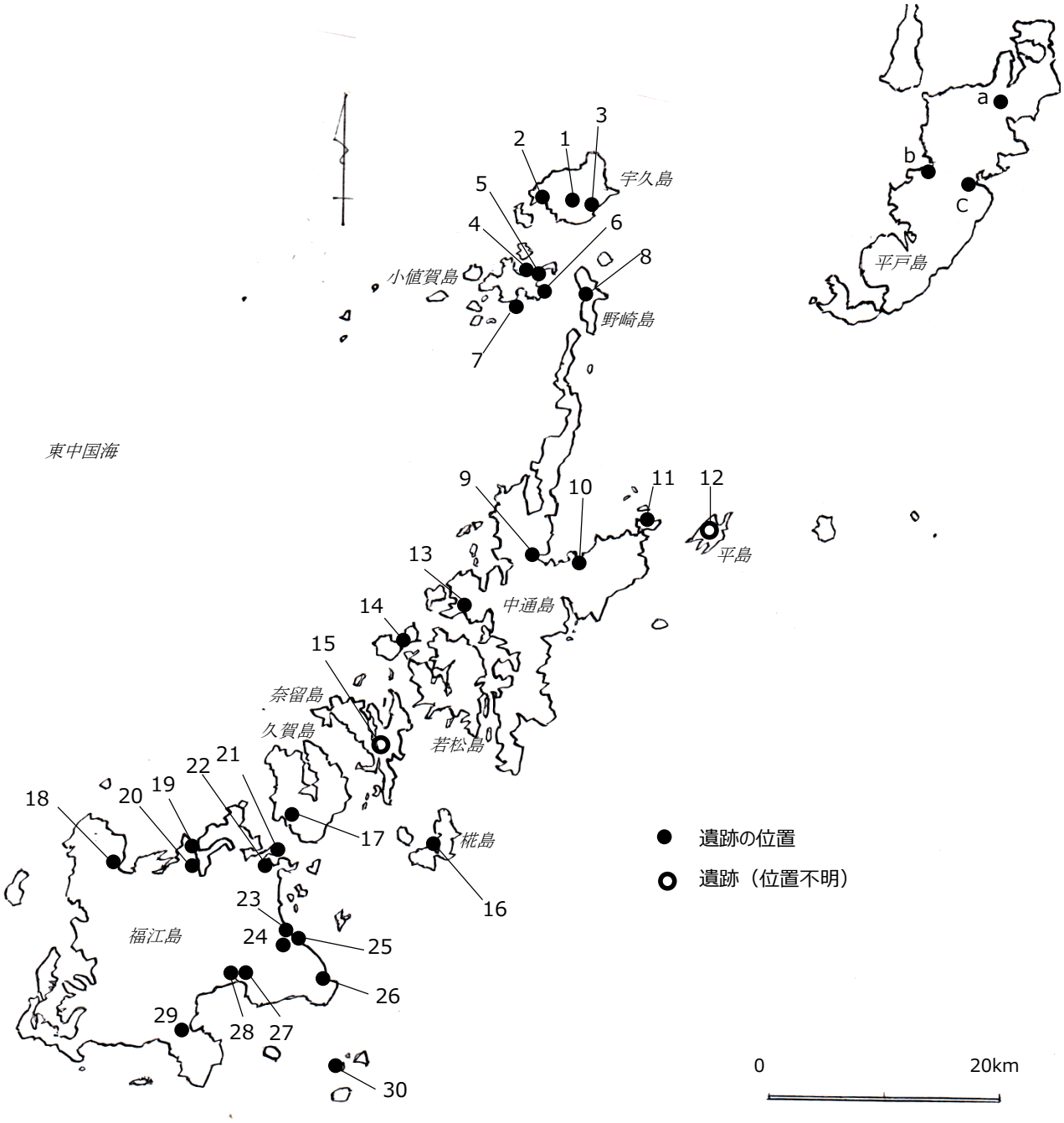
左図：組み合わせ石銛の分布（縄文後期前半）

久我谷渓太 2016「鋸歯尖頭器・石鋸の系譜と展開」『東京大学考古学研究室紀要』30 の図 2 をもとに作成

３．なぜ弥生時代中期後半に五島列島人は貝交易上の役割をなくしていったのか

大型巻貝の消費が福岡平野から佐賀平野や筑後、筑豊に拡大したため、貝殻の輸入ルートが玄界灘まわりではなく有明海経由に移動しことが原因。経済的必要性で開拓された南北ルートは、同じく経済的効率性によって消失した。

＊歴史を学ぶ上で、「なぜ」を考えることはとても大事。今日の話にも、もっと突っ込むべき「なぜ」がある！



1	城ケ岳平子	8	野首	15	宇多尾	22	浜泊	29	宮下
2	宮の首貝塚	9	西ノ股	16	首ノ浦	23	水の窪	30	大板部洞窟
3	松原	10	浜郷	17	田ノ浦	24	一本木		
4	殿寺	11	頭ケ島白浜	18	三井楽貝塚	25	江湖貝塚	a	入口
5	神方古墳	12	平島第一	19	寄神貝塚	26	白浜貝塚	b	根獅子
6	殿崎	13	小浦	20	茶園	27	大浜	c	馬込
7	神ノ崎	14	曲古墓群	21	堂崎	28	中島		

図１　五島列島と平戸のおもな遺跡（a、b、c は平戸島の遺跡）

表１　五島列島のおもな遺跡（a、b、cは平戸島の遺跡）

No.	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代～	備考
a	入口	後					台形状剥片（石器の真偽に議論あり）
6	殿崎	後	前～晩	中			ナイフ形石器、細石器、細石核
1	城ケ岳平子	後	草創				細石器、細石核
20	茶園	後	草創・早				細石器、細石核、局部磨製石斧
9	西ノ股	後	前～後	○			石槍、細石器
15	宇多尾		前	前・中			
25	江湖貝塚		前				曽畑式土器のみ。満潮時には海中に1m没する。
30	大板部洞窟		前				水中の貝塚
12	平島第一		前	中			
2	宮の首遺跡		前～晩	前・中	前・後	古代、中世	6~8世紀のアワビ貝層、製塩土器、古代の生産遺跡
8	野首		前・中・後	前・中	前・中・後	古代、中世	
11	頭ケ島白浜		前～晩		後		韓国隆起文土器、瀬戸内系中期土器、馬
21	堂崎		前・中・後	○	後	中世	
22	浜泊		前・後				
26	白浜貝塚		前・中・後	前			鯨骨製アワビオコシ、鮫歯製品、人骨2体
28	中島		前・中・後	○	前		ドングリ貯蔵穴3
29	宮下		前・中・後				打製石斧10本埋納、二枚貝腕輪62
13	小浦		後	中	後	中世	
23	水の窪		後・晩				
24	一本木		晩	中・後			甕棺墓2基
16	首ノ浦		○				
17	田ノ浦		○				
27	大浜		○	中・後		古代、中世	石囲墓、人骨、二枚貝腕輪、イモガイ腕輪
3	松原			早～後	後	中世	支石墓、甕棺墓、土坑墓、オオツタノハ腕輪
c	馬込			前			甕棺墓
4	殿寺			前・中			甕棺墓、石棺墓、
7	神ノ崎			前～後	中・後	中世	支石墓、甕棺墓、板石積石棺墓
10	浜郷			前・中		近世	甕棺墓、石棺墓
19	寄神貝塚			前・中	○		旧「岐宿貝塚」
b	根獅子			前・中			石棺墓、人骨、ゴホウラ腕輪
18	三井楽貝塚			中			
5	神方古墳				後		直径約15mの円墳。6世紀末～7世紀初頭
14	曲古墓群					中世	14～15世紀び若狭産とされる石塔類約70基。

遺跡の番号は、図１に対応する。

凡例：「前・中・後・晩」は時期を示す。「前」は前期、「中」は中期、「後」は後期、「晩」は晩期。○は時期を特定できないもの

	30000 BC	旧石器時代		寒冷期。海水面−120m
右図 A	14000 BC			槍の使用（細石器）　茶園遺跡
右図 B、C	10000 BC	縄文時代	草創期	気温が上昇し始める
				土器、弓矢の使用　泉福寺洞穴
	8000 BC		早期	森林の形成
				シカ、イノシシの狩猟
	6000 BC			定住の始まり
	5000 BC		前期	気温の上昇、縄文海進
				丸木舟（伊木力遺跡）
				頭ケ浜白浜遺跡　江湖貝塚
	3000 BC		中期	野首遺跡
右図 D			後期	漁労が発展（石銛、大型釣針）
	1000 BC		晩期	
右図 E	900 BC	弥生時代	早期	水田稲作の開始。支石墓＊
右図 F			前期	北部九州の弥生文化の到来
	1 BC/AD1		中期	沖縄と北部九州間の貝交易
	AD 200		後期	
	AD 400	古墳時代	前期	前方後円墳の登場
			中期	「倭の五王」
			後期	神方古墳
	AD 700	飛鳥時代		遣唐使始まる
		奈良時代		『肥前国風土記』　宮の首遺跡
	AD 900	平安時代		遣唐使

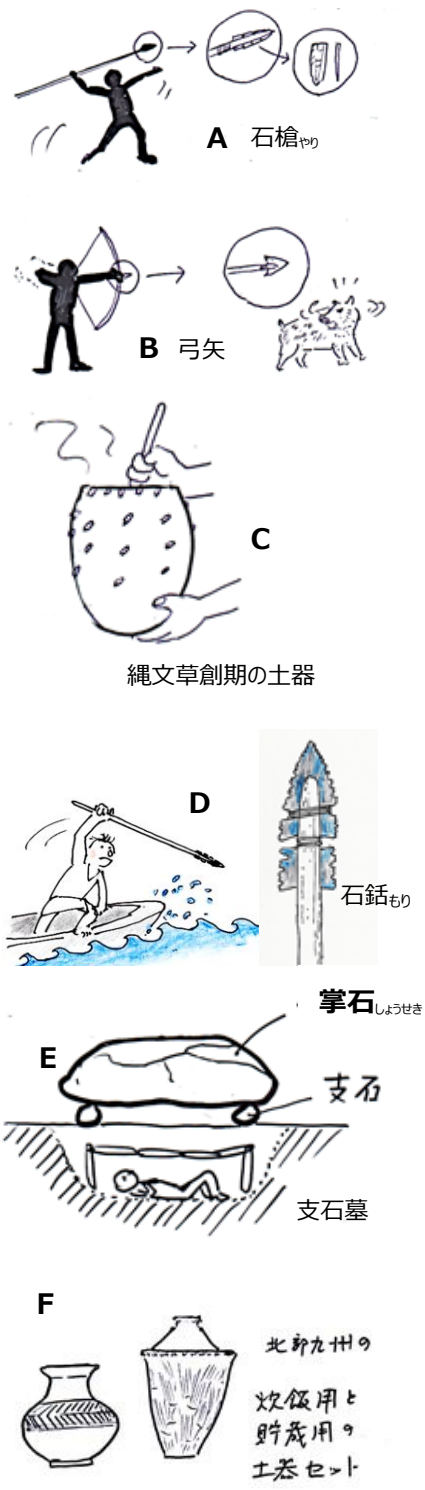


図２　先史・古代の時間の流れと五島列島

＊支石墓しせきぼ

遺体を埋葬した上に、地上の目印になるような大石（掌石しょうせき）を置く墓で、 これを支える石があるので支石墓と呼ばれる。中国東北部や朝鮮半島に特有の墓で、日本では弥生時代の初めに伝わり、長崎県と佐賀県に集中して見られる。弥生時代の起源と人の移動を示す重要な墓である。

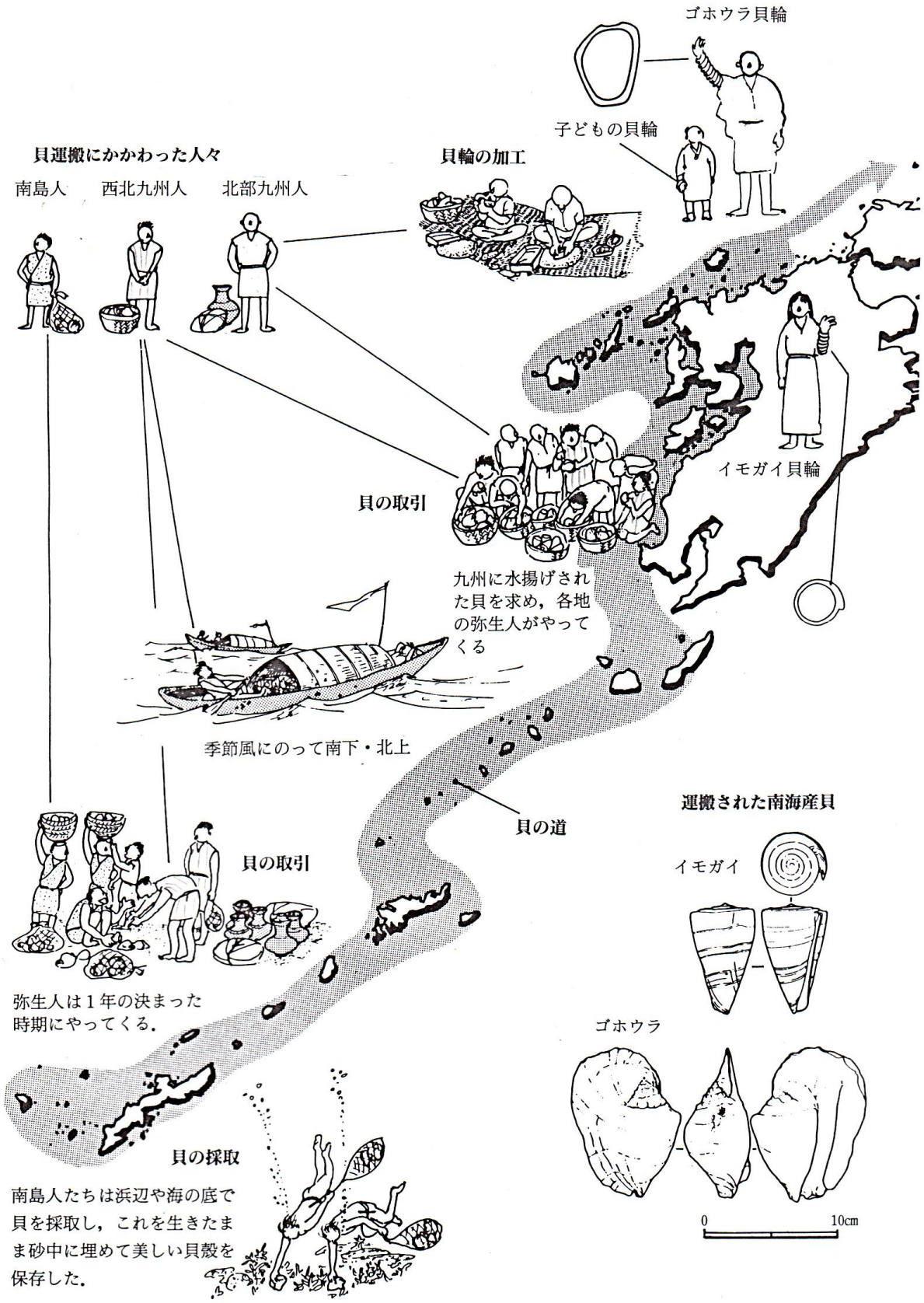
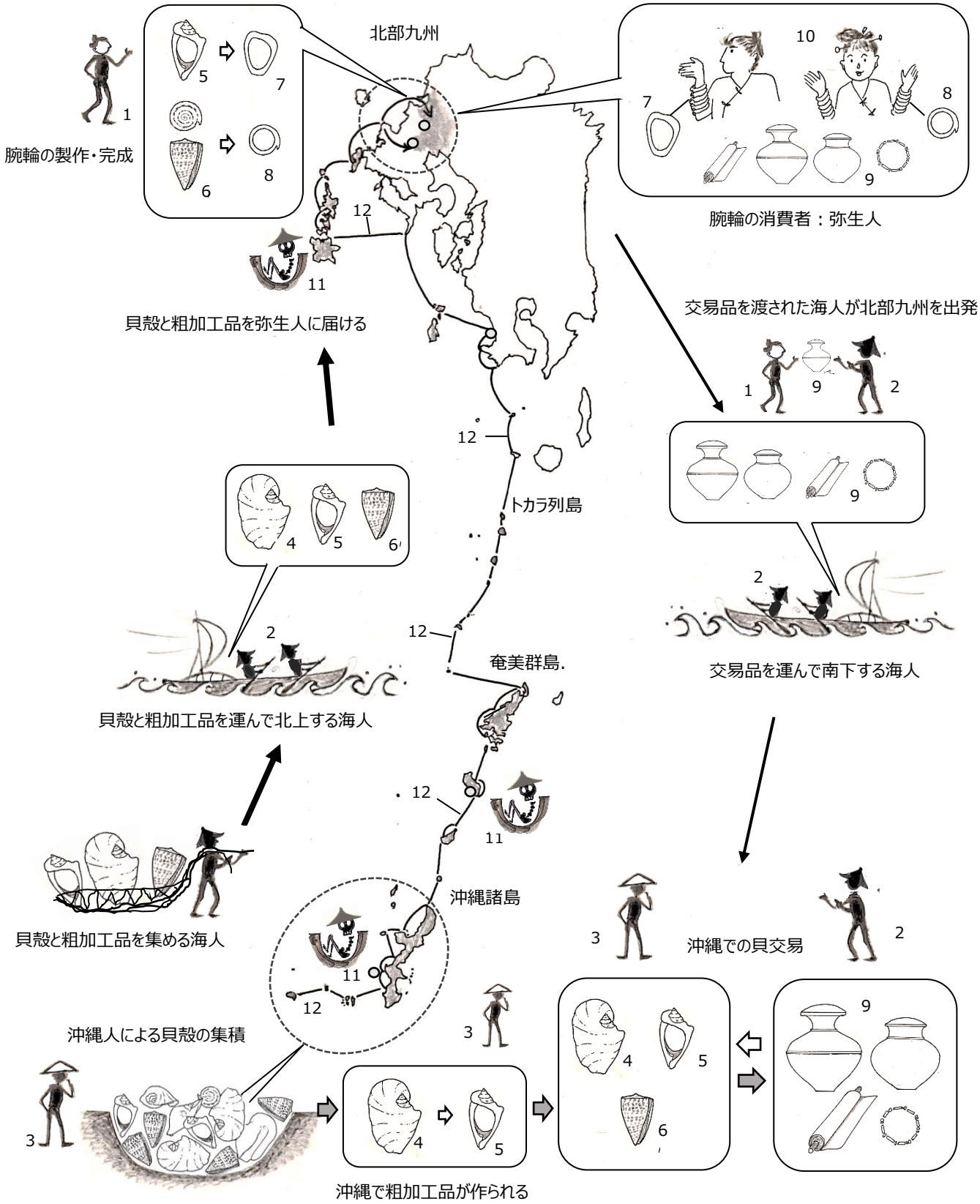


図２　弥生時代前期～中期前葉の貝交易の復元模式図



1:北部九州弥生人　2:西北九州沿岸部・奄美群島の海人　3:沖縄貝塚人　4:ゴホウラ　5:ゴホウラ粗加工品　6:大型イモガイ　7ゴホウラ腕輪　8:イモガイ腕輪　9:交易品（穀物、織物、玉類等）　10:腕輪をはめた弥生人（祭司）　11：海人の墓　12: 推定される貝交易ルート

図３　弥生時代貝交易模式図

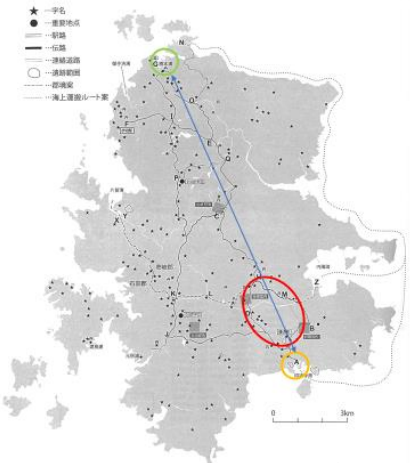
定光寺前遺跡出土の土師器からみた中世壱岐の研究

長崎県立壱岐高等学校東アジア歴史・中国語コース歴史学専攻３年
坂本蒼羽・中上海大・野口柊亨・森﨑光舞

1.はじめに

2019 年・2020 年の２回にわたり、定光寺前遺跡の発掘調査を行った。2019 年は、先輩方が「貿易陶磁器」の出土数から壱岐の中世について研究した。2020 年、私たちは、同じ発掘調査で出土していた「土師器」の出土数に焦点をあて、研究をおこなった。

〔研究のねらい〕
- ●土師器で研究することで、より細かな時間軸で編年を作ることができる。
- ●ほかの地域と比較ができる。
- ●主郭部から出土した土師器のため、当時の生活をより強く反映できる。
- ●壱岐の中世研究を進めるための時間軸として編年を活用することができる。



古代律令制下における壱岐国の体制図 2020（全島概略図）

2．観城と定光寺の関係

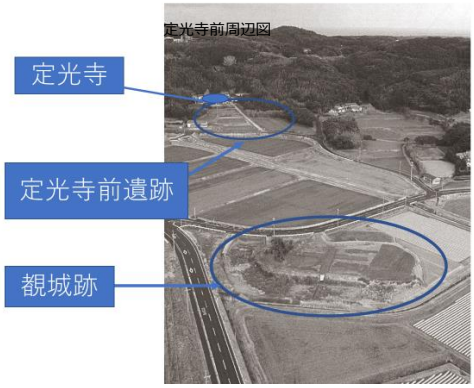
（１）観城の発掘調査の概要

これまでに２度（平成７・平成８）の発掘調査が行われている。平成７の調査では、城の濠の調査が行われ、大量の土師器が出土している。平成８の調査では、城の主郭部の調査が行われ、大量の貿易陶磁器が出土している。

（２）観城と定光寺の役割

観　城：平安時代末期は長田忠致の居城であったが、元寇の後、室町時代には松浦党志佐氏の代官真弓氏の居城となった。

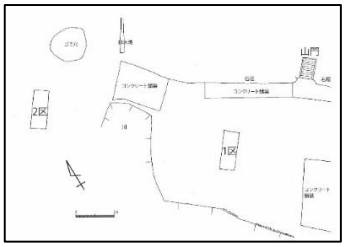
定光寺：1472 年、波多泰の侵攻により、都城が攻められ、真弓氏の首が埋葬された。



定光寺前周辺図

3.発掘調査の概要

実施：令和２年７月
場所：定光寺前遺跡
内容：令和元年の調査区を再発掘
成果：・大量の土師器が出土
・遺構などは見つからず
・１区の遺物包含層から完形に近い坏が出土



定光寺前遺跡 発掘調査区配置図

土師器坏出土状況

4．壱岐の中世土師器の編年作成（観城跡・定光寺前遺跡）

（１）観城跡編年の作成

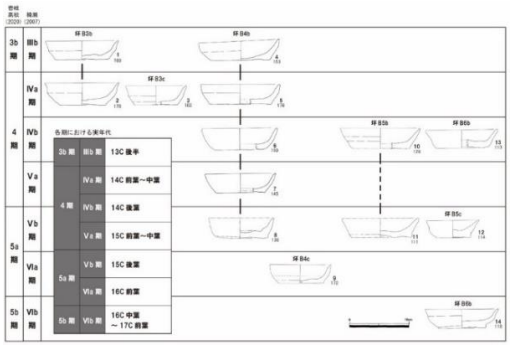
①観城で発掘した土師器を体部、底部、口径の３つを、博多遺跡群における中世土師器の編年（楠瀬 2007）の基準で分類した。

②楠瀬編年における存否・頻度のセリエーションを元に、形体ごとに細別器種をわけた。

③「古い特徴をもつもの」→「新しい特徴をもつもの」に、さらに細かく分類し、時期比定を行った。
※層位による検証は未実施のため、今後の課題である

〔わかったこと〕

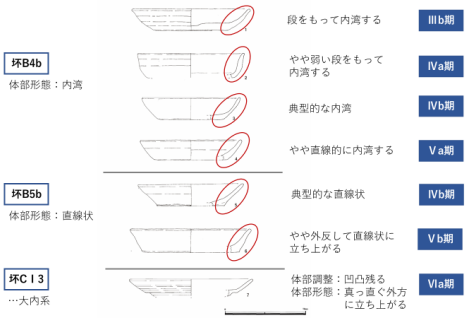
- ●楠瀬編年によると、13 世紀後半～17 世紀前葉にかけてのものである。
- ●壱岐の土師器の特徴として、全体的に器壁が分厚い。
- ●15 世紀後葉から底部がさらに分厚くなる。
- ●楠瀬編年に記載されていない細別器種を発見。



観城跡出土中世土師器編年図（S＝1/3,実測図は壱岐市教育委員会 2006 より転載）

（２）定光寺前遺跡出土の土師器

定光寺前遺跡発掘（令和元･２）で出土した多くの土師器のうち、観城跡の分析と同じ基準で比較するために、底部・体部・口径の３つがそろった７点を比較。



定光寺前遺跡出土中世土師器（S=2/3）

5.貿易陶磁器を用いた研究との比較

先輩たちが作成した棒グラフの上に、時期ごとの中世土師器の数量の変化を重ねた

【先輩たちの仮説（壱岐高 2020)】

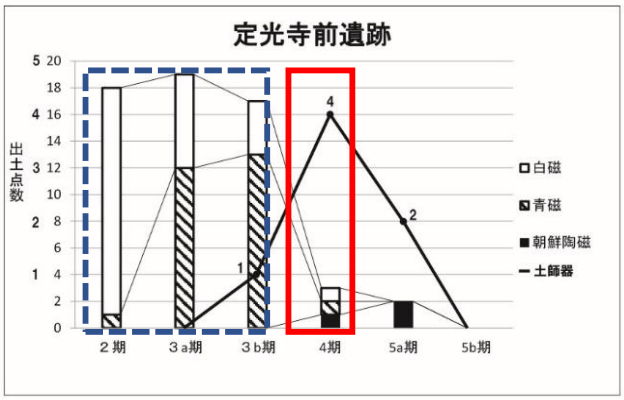
（仮説 A）定光寺前遺跡の周辺こそ、後世に平家に関連すると伝承されるような集団がいた場所ではないか。

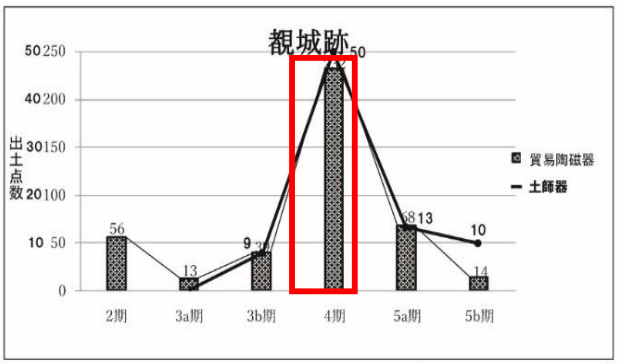
（仮説 B）波多泰が亀丘城に拠点を置いた後、拠点が郷ノ浦町周辺に移り、それまでの拠点であった深江田原が衰退していったのではないか。

【グラフよりわかること】

①観城跡において、中世土師器は３ｂ期に現れ、４期に最多となり、減少する。 ➡ 貿易陶磁器の増減とよく似ている ＝人間の活動の活発さをよく反映している。 ＝中世土師器編年の妥当性あり

②定光寺前遺跡において、中世土師器は３ｂ期に現れ、４期に最多となり、減少する。 ➡ 貿易陶磁器の増減と波形が異なる ＝仮説 A を支持しない ※定光寺前遺跡中世土師器は７点と少ないため、必ずしも仮説が間違っているとはいえない





中世土師器・貿易陶磁器における時期別数量変化の比較（壱岐高校 2020 に一部加筆・転載）

6．覩城跡の中世土師器を用いた仮説

【グラフよりわかること】

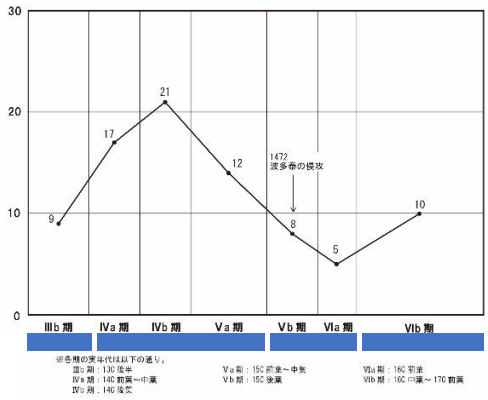
覩城跡出土中世土師器の時期別数量変化のグラフより、中世土師器はⅢｂ期に現れ、Ⅳｂ期に最多となり、Ⅴａ期・Ⅴｂ期にかけて減少する。

↓

波多泰の侵攻（1472 年）以前から、中世土師器の減少が始まっている。
＝仮説 B を支持しない

↓

波多泰の侵攻（1472 年）以前より、人口が減少していたのではないか。



覩城跡出土中世土師器の時期別数量変化

壱岐高校（2020）	楠瀬（2007）	
3b 期	Ⅲb 期	13C 後半
4 期	Ⅳa 期	14C 前葉～中葉
	Ⅳb 期	14C 後葉
	Ⅴa 期	15C 前葉～中葉
5a 期	Ⅴb 期	15C 後葉
	Ⅵa 期	16C 前葉
5b 期	Ⅵb 期	16C 中葉 ～ 17C 前葉

各期における実年代

7.まとめと展望（仮説）

中世土師器の点数の増減に表される変化＝**14C 後葉（Ⅳｂ期）から減少**

〔仮説Ⅰ〕
覩城跡・定光寺前遺跡周辺の状況を表すものと想定した場合

↓

覩城に住んでいた人が眞弓館へ移動したのではないか
＝覩城が館としての機能から、城としての機能へと変化した

〔仮説Ⅱ〕
壱岐島全体の状況を表すものと想定した場合

↓

もともと壱岐の衰退は始まっており、こうした壱岐の衰退に乗じて、波多泰が侵攻（1472）してきたのではないか

〔仮説Ⅰ〕と〔仮説Ⅱ〕をより確かにするために・・・

眞弓館跡で発掘調査
↓
中世土師器の増減が覩城跡の時期的変化と逆である場合

島内の深江田原から離れた中世遺跡発掘調査
↓
中世土師器出土の増減が同じである場合

中世壱岐に関する文献資料を読み、当時の歴史について、学習を深める

※深江田原には志佐氏の領地として、「眞弓館跡」という代官眞弓氏が住んでいたという記録が残る遺跡あり